

令和6年度「奄美市長とのふれあい対話」（in大阪）での主なご意見と市の対応						
No.	地区	項目	意見要約	市長回答	所管課	所管課補足
1	大阪	ソテツシロカイガラムシの駆除について	奄美のソテツに関して、ソテツシロカイガラムシにより被害を受けていると見聞きする。駆除の状況についてどうか。	ソテツシロカイガラムシについて、現在認められている農業での対処は、一時的には活動を止めることはできますが、根本的な解決には至っていない状況でございます。新たな駆除の薬剤について、国・県を中心に開発の研究を行っていただいているところですが、しばらく時間がかかるとの認識でございます。なお、市の所有するソテツについては、葉の伐採、場合によっては幹も伐倒しているところです。併せて、奄美の固有のソテツの種などを保存していただくよう、専門家の方々に取組みを行っていただいております。	農林水産課	補足なし
2	大阪	移住者について	年間の移住者数はどのくらいか。	移住者数の全体の把握が難しく、現状は市民課での転入者アンケートをもとに確認しているところです。厳密ではありませんが、転勤などを除き、年間でおおよそ200～300人ほどの移住者数となっております。なお、転入・転出による人口の増減である社会増減でいえば、転入者よりも転出者が多い傾向にあり、マイナスとなっております。また、二地域居住を推進するべく、国の事業も活用し、定住に向けた取組みを行っております。	企画調整課	補足なし
3	大阪	サトウキビについて	自然農法、無農薬でサトウキビを栽培して、都市圏に売り込むことができるのではないかと。都市の人は探しても手に入れたいと思っている。	農業や化学肥料を使わない農業・栽培のことと思います。現状、奄美のサトウキビのうち、黒糖になるものが数%、その他大部分が、ザラメになっているところです。奄美大島は気温と湿度が高いため、虫の発生が多く、農業や化学肥料を使った大規模農業により、サトウキビ栽培をする必要がある部分もございますが、黒糖をつくるための農地について、有機栽培を行っていく余地もあると思いますので、国の方針としても有機栽培の導入が推奨されていることも踏まえ、所管課に住民の声として届けさせていただければと思います。	笠利総合支所 糖業推進室	現在、奄美市管内で黒糖などの生産や販売を行っている業者が3戸あり、うち1戸が自然農法によりサトウキビ栽培を一部行っており、栽培したサトウキビを利用して所有の店舗でケーキなどを販売しております。奄美市のサトウキビ生産者の大半は製糖工場へ出荷を行っておりますが、栽培につきましては、平成23～24年度にあった害虫（メイチュウ）被害により生産量が激減した経緯があり、北海道のてん菜等と同様、サトウキビも国策でありますので、現在は生産量回復のため、国庫事業や奄美市にありますサトウキビ協議会などの事業を活用し肥料や薬剤の助成事業などを行っている状況でございます。また、高齢化が進み労働力軽減を図るために機械導入等の取り組みも行っております。ご意見いただいた自然農法などによる取り組みにつきましては、近年の資材高騰の影響で肥料や薬剤の価格が上昇している中、本市としても化学肥料等の低減に向けて検討を始めているところでありますので、まずは化学肥料等の低減などの取り組みを行ってまいりたいと思います。 （参考：R5年産奄美市実績） 生産量 25,300トン 産糖量 3,418トン（うち分みつ糖 3,232トン 含蜜糖 186トン） ※分みつ糖については、ザラメ280トンで残りの2,952トンは白糖や三温糖などになる原料糖） ※含蜜等の186トンは全て黒糖焼酎用
4	大阪	民間ビルの今後について	名瀬には建築されてから50～60年経つようなビルが多くあり、今後解体などの課題が出てくると思うが、市としてどう考えているか。	非常に憂慮している重い課題であります。木造の家屋については、代執行を行った事例がございますが、代執行は真に止むを得ない最後の手段であると認識しておりますので、早い段階からビルの所有者に適正な管理を求めてまいりたいと思います。	プロジェクト推進課	ビルの状況把握はできていませんが、今後、老朽化による危険性や景観の観点で課題になると認識しています。市としてはビル所有者に対し、適正管理等を呼びかける必要もあろうかと考えています。

No.	地区	項目	意見要約	市長回答	所管課	所管課補足
5	大阪	西宮市との交流及びシャリンバイの奄美での植栽について	西宮市は人口が50万人おり、せっかく友好都市として位置づけられているので、もっと交流を増やすことができないか。また、奄美のシャリンバイが少なくなっていると聞く。奄美から送ってもらったシャリンバイを個人的に1万本ほど栽培しているが、奄美空港から名瀬港まで、シャリンバイを植栽することはできないか。	西宮市さんとは友好都市として、40年以上長年交流させていただいております。まだまだ交流の余地があると思いますので、西宮市長とも連携して今まで以上に取組みが増やせたらと思います。 また、シャリンバイについては、泥染めに利用されたり市の木としても制定されているところですが、道路の街路樹等については、雑草が生えづらいようメンテナンスフリーとして何も植えないでほしいとの地元の要望もございます。新たな道路建設などで植込みを行う際など、機会をとらえて、なるべく増やしていけるよう取り組んでまいりたいと思います。	総務課 土木課	（総務課）奄美市の市制施行後、西宮市と改めて友好都市協定を締結し、令和8年で20周年を迎えます。これに合わせ、記念事業等の計画を練っているところです。こうしたことを含め、今まで以上に交流の機会を増やせたらと考えております。 （土木課）補足なし
6	大阪	人口減少について	人口の増加に向けて、離島で人口が増えているトカラ列島十島村の山海留学や、島根県知夫村の島留学などが参考になるのではないか。また、物産展開催の際に、移住定住のコーナーなどを設けてはどうか。	今後も国全体として人口が減少する中で、市としていかに減少の速度を緩やかにするか、また活力を失わないかが大切だと考えております。そのうえで、島での留学については、各小中学校・高等学校で取り組んでおり、引き続き他町村とも連携して推進してまいりたいと思います。物産展については定期的に全国で開催しておりますので、移住相談なども行えるよう考えてまいりたいと思います。	教育委員会 学校教育課 総観光課 企画調整課	（教育委員会学校教育課）奄美市内小・中学校に転入学を希望する児童・生徒に対し、校区内の受け入れ家庭（以下「里親」という。）の協力を得て実施し、奄美の自然体験や活動等を通じて地元児童・生徒との相互の教育効果の向上と振興を期し、併せて地域の活性化と発展を図ることを目的に取り組んでいます。 （総観光課）（企画調整課）補足なし
7	大阪	ふるさと納税について	奄美市のふるさと納税はどのような内容があるか。また、島の文化にふるさと納税が充てられるようにならないか。	奄美市のふるさと納税返礼品について、一番人気が高いのはフルーツとなっております。併せて黒糖焼酎や肉類など、1000種類程度が返礼品に位置づけられております。現状、奄美市のふるさと納税寄付額は3億円程度となっており、まだまだ寄付額の増加に向けて取り組んでまいりたいと思います。なお、奄美市は寄付額の大半を教育予算に充てて、児童・生徒の教育環境整備に使わせていただいております。また、ふるさと納税の使い道について、教育と文化が内容に含まれていたと思います。各集落の文化が大切な奄美の宝であると思いますので、地域の声をいただきながら、大切な文化を残すため、引き続き制度や取組みを研究してまいります。	プロジェクト推進課	奄美市のふるさと納税の返礼品ですが、フルーツや黒糖焼酎といった物だけでなく、奄美市内の宿泊券や奄美市へのツアーなど旅行関係の返礼品への寄附も伸びております。 ふるさと納税は寄附金をふるさと応援基金として積み立てており、その基金を使用し、ふるさと納税等活用事業を実施しています。実施事業の中には、各地域・各集落の伝統文化や伝統行事等の映像記録保存を行う事業や、小学校・中学校でのシマ唄・シマグチ保存継承事業、郷土の自然・文化・伝承伝統産業等に触れる学習を充実させる事業などがあり、島の文化を保存、継承するためにも使われています。
8	大阪	移住について	移住者の皆さんは、奄美の自然・文化に惹かれ、子どもの将来を考えて移住される方が多いと思います。ただ、奄美から大学などの高等教育を受けるには、経済的に大変負担があると思うので、大学進学時等の支援として補助など行うことができないか。	奄美市にも奨学金制度がございますが、十分でないところもございますので、まずは本土との行き来がしやすくなるように、LCCも含めて航空便の維持継続への取り組みを行うとともに、総合的に施策を考えていきたいと思います。	教育委員会 教育総務課 総観光課	（教育委員会教育総務課）（総観光課）補足なし